（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
金融経済学Ⅱ	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
國方　明 Kunikata Akira	授業内で伝えます。	講義

〔科目の概要〕

本科目では、金融という経済活動を、主にマクロ経済学の知識を使って理解します。皆さんのほとんどはマクロ経済学を受講しているでしょうし、皆さんの中には経済変動論を受講した人もいるでしょう。これら科目で身につけたマクロ経済学の知識と理論のうち、金融にかかわる部分をより深く学びます。

第 5 回～第 11 回が、マクロ経済学を金融に応用した授業です。マクロ経済学と経済変動論に比べて、本科目は、マクロ経済学の歴史を振り返りながら、金融政策の有効性を議論します。また、本科目では金融政策の目標と手段といったやや技術的な面も学びます。

また残りの回の授業では、第 5 回～第 11 回の授業を理解するために必要な範囲内で、ミクロ経済学を金融に応用します。特に金融システムの重要な構成要素である民間銀行を学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 他の科目との関連付け

まず、〔科目の概要〕で説明したように、本科目では、主にマクロ経済学や経済変動論で学んだ知識を用いて金融を理解します。したがって、マクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、マクロ経済学のうち金融政策と金融システムにかかわる部分です。

次に、本科目で教えた知識を、金融機関論(3 年次秋学期、展開科目)で応用する予定です。。

2. 学んだことが何に結びつくか？

既にマクロ経済学と経済変動論で、皆さんは金融政策の重要性を学んだと思います。この重要性を、歴史や技術面も含めて理解できると考えます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 最終目標

・　金融政策が一国経済に与える影響を適切に理解するための知識と理論を身につける。

2. 中間目標

・　金融政策の目標と手段を学ぶ。
・　民間銀行が、金融政策とどのように関連しているかを学ぶ。
・　現在の日本で、金融特に金融政策と金融システムに関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。

以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2023 年度には、3 年生科目全体よりも比較的高い評価をいただきました。2024 年度にも高い評価を得られるように努めます。

〔教科書〕

本科目では教科書を使用しません。その代わり、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。下記参考書に基づいてハンドアウトを作成しています。

〔指定図書〕

該当なし。

〔参考書（5 冊すべてで新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)〕

参考書 1:　内田浩史『金融』有斐閣、2016 年
参考書 2:　福田慎一『金融論 市場と経済政策の有効性【新版】』有斐閣、2020 年
参考書 3:　小林照義『金融政策【第 2 版】』中央経済社、2020 年
参考書 4:　植田健一『金融システムの経済学』日本評論社、2022 年

〔前提科目〕

マクロ経済学、経済変動論

上記 2 科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。ただし前提科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

2020 年 4 月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。

(ア) 第 1 回小テスト。択一式です。第 10 回授業内で実施する予定です。

(イ) 第 2 回小テスト。択一式です。第 15 回授業内で実施します。

一方 2019 年 4 月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1 点目**を参照してください。

〔評価の基準及びスケール〕

2020 年 4 月以後に入学した学生については、〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。

A:80%以上。B:70%以上 80%未満。C:60%以上 70%未満。D:50%以上 60%未満。F:50%未満。

一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1 点目**を参照してください。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- 2019 年 4 月以前に入学した学生は、本科目を履修するとともに、今年度秋学期開講予定の金融経済学 I を履修してください。これら 2 科目の学修成果を総合して、該当者向けカリキュラム「金融経済学」4 単位分の評価を行います。
- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。
- 担当教員が遠隔地にいます。このため、たとえば遠隔授業の実施または集中講義期間における開講などの運営をとる可能性があります。学内掲示などに従ってください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

〔実務経歴〕

公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、これまで学んできたマクロ経済学の理論をどのように金融へ拡張できるのか、また金融理論の特徴が現実の制度とどのように結びついているのかを学ぶ授業です。

授業スケジュール

(新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスと民間銀行(1) 内　容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、民間銀行の超過利潤の源を理解します。民間銀行特に地域銀行は、利鞘から超過利潤を得ます。利鞘は、長期の貸出利子率から、短期の預金利子率を引いた差です。 参考書 1 第 8 章と第 13 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 利子率の期間構造 内　容: 長期利子率と短期利子率との関係について、3 つの仮説があります。これら仮説を紹介します。 参考書 1 第 2 章、参考書 2 第 4 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行(2) 内　容: 民間銀行の役割を学びます。また、取り付け騒ぎという現象を学びます。 参考書 1 第 8 章と第 13 章、参考書 2 第 9 章、参考書 4 第 8 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行(日本では日本銀行) 内　容: あえてミクロ経済学的な思考法を使って、中央銀行という個別経済主体を学びます。 参考書 1 第 12 章と第 14 章、参考書 2 第 11 章

第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣供給と、貨幣に対する需要 内　容: 第 5 回～第 9 回では、金融政策を中心に、一国内で完結するマクロ経済学の理論を学びます。第 5 回では、貨幣供給と貨幣需要それぞれの決まり方を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2 第 10 章、参考書 3
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の有効性についての論争 内　容: マクロ経済学の歴史を振り返り、金融政策の有効性についての論争を紹介します。また、裁量とルール、タイムラグ、時間不整合性やクレディビリティなど、論争の中で現れた様々な概念を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2 第 12 章と第 14 章、参考書 3
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の最終目標と手段 内　容: 金融政策の最終目標を学びます。また、中央銀行が最終目標を達成するために実施する手段を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2 第 11 章、参考書 3
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): ルール割り当て理論 内　容: 金融政策にかかわるルールを第 6 回で学びました。今回、まず代表的なルールを 2 種類学びます。次に、2 種類のルールの割り当てに関する理論を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2 第 11 章と第 12 章、参考書 3
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 非伝統的金融政策 内　容: 1990 年代末以降、わが国では非伝統的金融政策が数度実施されています。非伝統的金融政策の特徴や、期待される効果を学びます。また、非伝統的金融政策の副作用も学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2 第 15 章、参考書 3
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(1) 内　容: 第 3 回で、取り付け騒ぎを学びました。第 10 回～第 13 回で、この騒ぎを予防したり、騒ぎが実現したときに騒ぎを軽減したりするための政策対応を学びます。この政策をプルーデンス政策といいます。第 10 回では、プルーデンス政策の概要を学びます。 また<u>第 10 回授業内で、小テストを実施する予定です。</u> 参考書 1 第 14 章、参考書 4 第 9 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(2) 内　容: プルーデンス政策は、マクロプルーデンス政策とミクロプルーデンス政策の 2 つに分かれます。第 11 回では、このうちマクロプルーデンス政策を学びます。 参考書 1 第 14 章、参考書 4 第 9 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(3) 内　容: ミクロプルーデンス政策の主要手段である、自己資本比率規制を学びます。 参考書 1 第 14 章、参考書 2 第 7 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(4) 内　容: ミクロプルーデンス政策の手段のうち、自己資本比率規制以外を学びます。 参考書 1 第 14 章、参考書 2 第 7 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): トピックス 内　容: 近年のトピックスを学びます。 参考書は該当なし。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 学習状況の確認(第 2 回小テストを含む)と振り返り 内　容: 履修者それぞれの学習状況を確認します。そして第 14 回までの授業を振り返ります。
試　験	期末試験と期末レポート、どちらも実施しません。